

農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

学術情報課程通信

農大



学術情報課程は、学芸員、司書を養成する課程である。学芸員(curator)は、博物館、美術館、動物園、植物園などで、資料の調査に始まり、収集、保管の技術を持ち、展示普及を行うプロフェッショナルのことである。また、司書(librarian)は、図書資料の調査、収集、保管整理、提供などを行う専門職のことを指す。

全国に学芸員、司書を養成する大学はあるが、その多くは人文、社会科学系の大学であり、本学のような自然科学系の大学とした大学での課程は、稀な存在である。つまり、本学の学術情報課程そのものが、実はユニークな存在なのである。さらに、新学部、新学科の創設も相俟って、ここ数年の学術情報課程の希望者数は格段に増加してきている。

さて、農大には、二〇〇四年創設の「食と農の博物館」があり、アカデミア一階には、「実学の杜」が設けられている。これら二つの存在と姿はまさに本学の大学像、ひいては、学術情報課程のあり方をも体現している。

二〇一七年に海外協定校のミシガン州立大学(MSU)に滞在、講義、実習を担当する機会があり、同大学の図書館はもちろん、博物館も利用することが度々あった。一般の来館者が多く、定期的な市民セミナーも活発に行われていたが、そもそ

本学の博物館と図書館

教職・学術情報課程 主任 上原 巖

学術情報課程は、学芸員、司書を養成する課程である。学芸員(curator)は、博物館、美術館、動物園、植物園などで、資料の調査に始まり、収集、保管の技術を持ち、展示普及を行うプロフェッショナルのことである。また、司書(librarian)は、図書資料の調査、収集、保管整理、提供などを行う専門職のことを指す。

MSUの博物館は、教職員の研究、教育のために設けられたものであったことをこの時知った。この教職員教育の施設であったということは、本学においても再考されるべきことであろう。というのも、「食と農の博物館」は、今日の「博物館」という名称を考え、日本の博物館の父と称される田中芳男が東京高等農学校時代の一九〇四年(明治三十七年)に設置した「標本室」が原点であり、やはりそこには教職員教育の目的も持っていたことがうかがえるからである。

一方、図書館は、各大学の顔であるとも評されることがある。実際、国内外を問わず、伝統校では数多くの蔵書、資料を有する瀟洒な図書館を持っている。有名な大学図書館では、ドラマや映画の撮影舞台にも使われるほどだ。図書館もまた、それ自体が舞台となるのである。私自身にとっては、学生時代、旧図書館の閲覧室でドイツ語の予習をし、窓から農大キャンパスの四季の変化を眺めていた情景が印象深く残っている。

農学というまっさらな森羅万象にかかわる学問を学び、その博物館、図書館で学んだ学生が、広く国内外に旅立ち、実社会にだけではなく、自らの心の中にも博物館、図書館を創り、資料を編纂し、書に親しんでいく人材となっていくことを願ってやまない。

学部	学芸員	司書
農学部	64	17
応用生物科学部	21	4
地域環境科学部	24	5
国際食料情報学部	6	3
生物産業学部	34	—
合計	149	29

東京農業大学
資格取得者数

東京農業大学
短期大学部
資格取得者数

学科	司書
生物生産技術学科	6
環境緑地学科	2
醸造学科	5
合計	13

平成29年度
資格取得
状況

平成30年 学芸員・司書関連新規就職先一覧

平成31年2月現在

学 科	就職先
農学研究科後期博士課程平成21年卒	川崎市宙と緑の科学館
農学研究科前期博士課程平成23年卒	千葉県立中央博物館
農学研究科前期博士課程平成23年卒	神奈川県立生命の星地球博物館
畜産学科平成29年卒 2名	東京動物園協会(嘱託)
バイオセラピー学科平成21年卒	富山市科学館
バイオセラピー学科平成29年卒	市立市川自然博物館(嘱託)
アクアバイオ学科平成27年卒	えりも町郷土資料館「ほろいずみ」・水産の館
アクアバイオ学科平成28年卒	日本動物園水族館協会(嘱託)
生物生産学科平成29年卒	千葉市動物公園「ふれあい動物の里」(臨時)
食品香粧学科平成26年卒(科目等履修生)	町田市立図書館(嘱託)

学 科	就職先
農学研究科博士後期課程	高知県立牧野植物園(嘱託)
農学研究科博士前期課程	環境庁
畜産学科	那須サファリパーク
バイオセラピー学科	富山市ファミリーパーク
バイオセラピー学科	鳥羽水族館
生物生産学科	小泉アフリカ・ライオン・サファリ株式会社
アクアバイオ学科	東北サファリパーク
アクアバイオ学科	宇都宮動物園
農学科	海老名市立中央図書館

農事遺産 ⑤

農大古農具コレクション



撮影：鈴木迅

真夏の昼過ぎだった。小学校から帰ると、稲田の除草作業をしていた母の手伝いをした。西日が眩しく、母が被っていた編笠を私に被せてくれた。一瞬、それが汗の匂いで嫌だった記憶がある。それと同じ編笠が昨年企画展「農民芸術―編まれた民具」の準備中、収蔵庫で見つけたのである。資料札には郷里の隣町、岩手県花泉町(現一関市)収集とあった。藁草で編まれた笠に濃紺の紐が美しく編みこまれており、記憶にある編笠と同じだった。今、それを手に取る。不思議な気が伝わってくる。

笠は被り物の一種で、傘と区別するためにカブリガサともいわれている。雨や雪、日差しを防ぐ民具とされ、菅や萱、竹、藁などを素材として用い、円錐形に編み作られる。種類は多く地方によって様々である。中国や東南アジアで広く使われており、歴史も古い。儀式などでも使用され、神が笠を被り訪れるという信仰とも深く関わるといわれる。それ故、その美しい気品と共に、何故か母の編笠と重なってくる。(Y)

資料名:編笠
受入番号:1361
寄贈者:阿部さかり 岩手県西磐井郡花泉町(現一関市)
収集:1971年
形状:直径44.0cm 高さ15.0cm 頂部の直径15.0cm
素材:藁草

表紙 「パピルサの頭蓋骨」ヨハン・セバスチャン・ライトナー画(銅版画手彩色)『自然界からの逸品の蒐集室』1771年ドイツ刊行 学術情報課程蔵

編集後記

前号から、表紙には干支に関連した博物図を掲載しています。学術情報課程では、このような教材としての博物・図書資料の蒐集を積極的に行いながら、全学科に関連する学際的なコレクションの形を目指したいと思っています。

学術情報課程通信 第7号
GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学
学術情報課程 発行

〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1-1-1
電話 03-5477-2530
レイアウト・印刷/共立印刷株式会社
平成31年(2019)年2月28日 発行

www.nodai.ac.jp/info

田中芳男の謎に迫る

博物館の父が果した虫捕御用

学術情報課程教授

黒澤 弥悦

田中芳男といえば、本学で学術情報課程を履修している学生であれば誰もが知っているだろう。信濃国飯田(現・長野県飯田市)に生まれ、わが国初の理学博士の伊藤圭介に本草学を学び、博物学者シーボルトとも関係を持つ。時は、一八六六年(慶応二年)、京都では薩長をはじめとした倒幕勤皇の志士たちと新撰組の闘争が絶えない、風雲急を告げる時代。フランスの生物学者が同国をととして日本の昆虫標本作製を幕府に依頼し、田中が虫捕御用としてそれに組み入り万博に赴いた話は有名である。また明治維新を迎えてからは、幕臣でありながら新政府に登用され博覧会開催をはじめ東京科学博物館(現・国立科学博物館)や書籍館(しよじやくかん)(現・国立国会図書館)、上野動物園の建設を推進した人物として知られ、今日では「日本の博物館の父」とも呼ばれているからだ。

その田中芳男が本学前身の東京高等農学校初代校長であったにも拘わらず、農大史では殆ど語られることはない。それは田中が校長としての在席が僅か五年という、単に短い期間だった故のことだろうか。むしろその五年間、田中が農大と関係を持つ最大の謎が存在するのである。

一八九一年(明治二四年)、榎本武揚が実学を目指した徳川育英会育英農科を開校した。その黎明期は東京農学校と改称するも生徒が思うように集まらず経営的にも大変だったという。榎本の榎本は「廃校も覚悟した程だ」と農大史ではよく語られる。結果的には、農業の改良進歩を図る目的で一八八一年(明治一四年)に設立された大日本農会に移譲され、学校経営を任されたのが同会幹事長の田中芳男であった。田中が農大史に最初に登場する一九〇〇年(明治三三年)のことである。

そして田中を初代校長として招聘したのが同校の評議員で、後の本学初代学長横井時敬だった。横井は駒場農学校(現・東京大学農学部)第二回学位授与式において、田中芳男の名が入った学位記を授かり、また第三回内国勸業博覧会では農務局長として審査部長だった田中から「塩水撰種法」において二等協賛賞を受賞している。それ故、横井は田中を師として仰いでも同然だっただろう。初代校長として招聘した背景には学校経営の苦境から脱したい横井の思いも窺える。つまり田中が農大に関わった



五年間は、農大史上最も大きな激動期でもあったといえよう。田中は生徒が集まらず経営の厳しい中、農場の土地拡大、新校舎の建築、そして国内の私立大学博物館としては最も古い本学食と「農」の博物館の源流ともなる標本室、さらには図書室の設置など施設の充実に取り組み。授業科目の充実も図られ、とりわけ虫捕

格六年前のことである。当然、大日本農会は援助するだけの余裕はなかった。学校経営者にしては、施設の整備は大事業である。それ故、田中は在任期間中、それらの事業をどのようにして成し得たか、余りにも謎が多いのである。

だが、それまでの田中の生涯を振り返れば、それらを可能にしたことが垣間見えよう。幕命によりパリ万博に出向き、また明治政府事務官としてウイーン万博やフィラデルフィア万博への出張、そして博覧会開催、博物館や動物園の創設、駒場農学校建設、国内初の農業館を伊勢神宮に開設するなど数々の企画事業に関わっている。また現職の貴族院議員でもあり、実務官僚として豊富な経験と農林水産界に果した実績を持つ田中の手腕であるならば、苦境を脱し五年間で安定した高等農学校を創り得たとしても何ら不思議ではないだろう。

しかし、単に経験があれば出来るわけではない。現実として財源をどの様に工面したのかが気になる。生徒数は増えてきたとはいえ、財源は十分ではなかったはずだ。謎の核心部分である。榎本と田中の関係を良く知る農学図書館界に貢献した本学の故大野史朗から伝え聞いている縁故者の話では、「田中先生は決して派手なこととはならず、列車や乗船では二等室を利用し、そのお人柄に度々ご融資して下さる方が居られた。」といわれている。農大を去るにあたってそれらの関係書類を一切残さなかったともされている。それ故、田中に関する当時の資料は農大には少ないのだという。これらが事実かどうか詳細は判らない。しかし、高等農学校を去る四年後に大学昇格への土台作りを横井と共に取り組んだことは確かである。

昨年十月、全国大学博物館講座連絡協議会東日本部会総会が本学で開催され、青木隆幸氏・前・長野県歴史館学芸部長による田中芳男についての講演があった。青木氏は、幕末から明治にかけての当時、殆どが武力によって国を変えてきた中で、田中は「知」をもって国を変えてきたと締めくくった。

今春、また多くの学芸員・司書資格者の卒業生を社会へと送り出すことができた。今、世界では自然災害をはじめ環境、経済、食料移民、そしてテロなど、様々な問題が生じている。学術情報課程で学んだ学生諸君は、田中芳男の教えである「知」をもって世界へ羽ばたいていって欲しい。

一九〇六年(明治三九年)東京高等農学校卒業式記念写真
校長の田中芳男(二列目中央、右から六番目)と右隣が教頭の横井時敬(後の初代学長)。
〈農大図書館大学資料室蔵〉

図書館司書の仕事をして思うこと

私は、東京都府中市に就職して図書館に配属になり、現在は府中市立中央図書館で仕事をしています。学生時代は、学芸員と司書の両方の課程を履修していました。そして、その両方の授業で学んできたことが、今の私の業務に直接的にはなくても役立っていることが多くあると感じています。

私は、昨年から今年にかけて同じ担当をしています。一つ目が地域資料担当です。地域資料担当では、府中市が発行する行政や地域に関する資料や東京都や近隣区市町村が発行する資料等を収集し、図書館の地域資料として受入れをする業務、状態が悪くなってきた資料の修繕業務、収集した資料の製本業務などがあります。また、「こども府中はかせ」という府中市にまつわる様々なテーマについて解説した冊子を作成しています。地域資料の中で、貴重な古い資料などを扱う時には学芸員の課程で学んだ資料の扱い方を生かすことができると感じています。

二つ目が特集棚担当です。特集棚担当では、季節や話題になっているテーマ等に合わせて図書館に所蔵している資料を集めて、一つの棚にポスターと共に展示を行っています。利用者の方にとっても新たな資料との出会いの場でもあり、学芸員の課程で学んだことも、資料の配置を考える際や面見せる資料を選ぶ際に、役立っていると感じています。

三つ目が視聴覚資料担当です。視聴覚資料担当では、図書館で受入れをするCDや

遺跡を守り伝えるために

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡は、約四五〇年前の戦国城下町の遺跡であり、約二七八haが特別史跡範囲として指定されており、発掘調査事業と環境整備事業が昭和四二年から現在に至るまで継続的に行われています。特別史跡内には特別名勝に指定されている発掘庭園が四つあり、発掘調査によって出土した遺物は重要文化財にも指定されています。

私が福井県職員として勤務している福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館では、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査事業や環境整備事業、発掘調査の成果や出土品の展示公開といった業務が行われています。これらの業務のうち、主として携わっているのが環境整備

大竹 桃子 Momoko OTAKE

1994年 埼玉県生まれ
東京農業大学地域環境科学部造園科学科卒業
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 学芸員

事業です。環境整備とは、発掘調査を実施した場所をどのようにして守り保存していくか、また、発掘調査によって得られた成果をどのようにして公開・活用していくかを検討し、必要な施設の設置などを行います。

在学当初は造園学を主に学んでいましたが、史跡の環境整備を行うにあたり、造園学以外の様々な分野の知識も必要になりました。発掘調査を行うことでどのようなことがわかるのか、戦国時代とはどんな時代だったのかなど、就任時から勉強を続けていますが、学ぶべきことはまだまだ多くあります。

環境整備の業務は、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡を守り、活用しながら後世へ伝えていくためには必要不可欠であり、とても重要な業務であると考えています。学ぶべきことも多く大変ではありますが、とてもやりがいのある仕事でもあり、この業務に携わることができたことを大変うれしく思っています。

現在、平成三三年度に特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡に関する新博物館が開館する計画があり、新博物館展示設計業務に史跡整備担当として携わっています。そこでは、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡における環境整備への取り組みについて紹介できたらと考えています。遺跡についてだけでなく、文化財の保存・活用について、より理解を深めて頂けるような展示を目指し、今後も真剣に業務に取り組んでいきたいと思っています。

